

夢中になれるものがあるれば、どんなことでも乗り越えられるんです

HUMAN CLOSE UP
ヒューマンクローズアップ



スポーツ
コメンテーター

奥野史子さん

シンクロナイズドスイミングでパルセロナ・オリンピックに出場し、銅メダルを受賞するなど、数々の輝かしい実績を残してきた奥野史子さん。現在、トップアスリートとしての経験を生かし、スポーツコメンテーターとして幅広く活躍されています。今回は、2人の子どもの母親として育児においても多忙な毎日を通して、2月24日開催の「子どもを共に育む『市民憲章』制定記念の集い」にも出席される奥野さんにインタビュー。シンクロを通して得たこと、子どもと向き合うために大切なことについてお伺いしました。

インタビューは2面でご紹介しています。

【撮影協力：京都ホテルオークラ】

子どもを共に育む「市民憲章」制定記念の集い

人づくり21世紀委員会 第10回 人づくりフォーラム 入場無料 事前申込制

子どもたちの今と未来のため、人と人の絆を結び、共に生きるうえでの行動規範としての市民憲章。

家庭、地域、学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、行動の輪を広げるため、お話し合わせの上、是非ご参加ください。

■「人づくり21世紀委員会」の取組から(午後1時30分～)

連続講座、ホームページ、行政区・団体の活動等、熱意あふれる取組の紹介

■「市民憲章」制定記念の集い(午後2時20分～)

式辞 ● 樹本頼兼 京都市長

講演・コメンテーター ● 柳田邦男氏 ノンフィクション作家

コーディネーター ● 藤原勝紀氏 京都大学大学院教授・「市民憲章」懇話会会長

パネリスト ●

井村裕夫氏 京都大学元総長・みやこ子ども土壌委員長

西岡正子氏 専修大学教育学部長・「市民憲章」懇話会委員

奥野史子氏 スポーツコメンテーター

申込方法

お電話・FAX・インターネットで

「京都いつでもコール」へお申し込みください。

●「住所」・「氏名」・「電話番号」をお伝えください。

●携帯電話 http://www.city.kyoto.jp/koho/m/cc/

お申し込み・お問い合わせ

京都いつでもコール ☎ 661-3755 FAX 661-5855

インターネット(次のホームページにアクセスし、専用フォームで応募してください)

●パソコン http://www.city.kyoto.jp/koho/cc/

●携帯電話 http://www.city.kyoto.jp/koho/m/cc/

主催 人づくり21世紀委員会、京都子どもネットワーク連絡会議・京都市教育委員会

あしたのために

家庭教育新聞

FOR OUR FUTURE

文化力

発行：京都市教育委員会
(生涯学習部家庭教育支援担当)
京都市中京区寺町御池 ☎075-222-3590
http://www.edu.city.kyoto.jp/kateituki

Vol. 173
平成19年(2007年)

◆もくじ

HUMAN CLOSE UP 奥野史子さん

特集「みんなで創って、みんなで実践

子どもたちの未来のため活動続ける「地生連」

生涯学習コーディネーター・子育てサポーター

～地域のつながりを創る市民ボランティア～

●京都「おやじの会」

連絡会

●第45回 クロスワードパズル

みんなで楽しくウォーキング ～世界一美しいまち、京都を歩く～

「秀吉が開いた城下町・伏見を歩く」

●読書大好き!⑧ ●横田滋写真展

●時を超え光り輝く京都の景観を目指して 編集後記

全国初

平成19年2月5日「育児ニコニコ笑顔の日」制定

子どもを共に育む京都市民憲章

わたくしたちのまち京都には、子どもを社会の宝として、愛し、慈しみ、将来を託してきた、人づくりの伝統があります。

そうした伝統を受け継ぎ、人と自然が調和し、命のつながりを大切に、子どもを健やかで心豊かに育む社会を築くことは、京都市民の使命です。

大人は、子どもの可能性を信じ、自ら育つ力を大切にして、子どもを見守り、褒め、時には叱り、共に成長していくことが求められます。そして、子どもを取り巻く状況を常に見つめ、命と健やかな育ちを脅かすものに対して、毅然とした態度で臨む必要があります。

わたくしたちは、子どもたちの今と未来のため、家庭、地域、学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、人と人の絆を結び、共に生きるうえでの行動規範として市民憲章を定めます。

わたくしたちは、

1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命

を守ります。

1 子どもから信頼され、模範となる行動に努

めます。

1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる

取組を進めます。

1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家

族の絆を大切にします。

1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域の

つながりを広げます。

1 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会

の環境づくりを優先します。

読書大好き!⑧

伏見区の神川小では、読書ノートを全校児童に配布し「めざせ100冊! 読書マラソン」に挑戦しています。目標に向かい学校や家庭、地域図書館で本を読む子どもの姿が見られるようになってきました。

広がる読書活動

神川小5年の辻なみさんは、10月21日に開催された「大好き学校図書館推進フォーラム」で、自分の読書体験を発表しました。現在、読書マラソンに挑戦中。すでに100冊を読み終えている弟さんに負けないよう、読書に励んでいます。学校図書館だけでなく、夏休みには地域の久我のり図書館に通い、伝記も読み始めました。いろいろな人の一生の記録を読んでいく楽しさを知ることができたそうです。

辻さんにとって、本はいろいろなことを教えてくれ、頭の中で体験しているような気持ちにさせてくれる存在。「もし自分だったら」と考えると、登場人物の気持ちがいっそう深く読み取れるそうです。

図書館でもらえるシールも、励みになっています。このシールは「めざせ100冊! 読書マラソン」運動の一環として市立図書館が配布しており、児童が読書ノートを持参して図書館で本を借りると、1冊につき1枚、金色のシールがもらえる仕組み。子どもたちの活発な読書活動のきっかけとなっています。

図書館でもらえるシールも、励みになっています。このシールは「めざせ100冊! 読書マラソン」運動の一環として市立図書館が配布しており、児童が読書ノートを持参して図書館で本を借りると、1冊につき1枚、金色のシールがもらえる仕組み。子どもたちの活発な読書活動のきっかけとなっています。

家庭での取組から

辻さんのお母さん、秀子さんは神川小で学校図書館ボランティアをされています。ボランティアを始めてから、家庭での、本との関わり方にも変化があらわれました。お子さんと本について会話する中で、

お互いにおもしろいと思った本を相手に紹介したり、その本について意見を交換し、お子さんは今まで読まなかったジャンルの本にも興味をもてるようになりました。

また、親子で同じ本を読んだ時には、印象に残った場面や、登場人物について感想を話し合うことも。そうすることで、一人で読むよりも、その本への理解が深まるように感じるとのこと。「子どもが幼い頃に読み聞かせをして共有了した世界を、子どもが成長して再びもつことができた」と、幼い頃に分かち合った世界を再びもつことを、とてもうれしく感じているそうです。

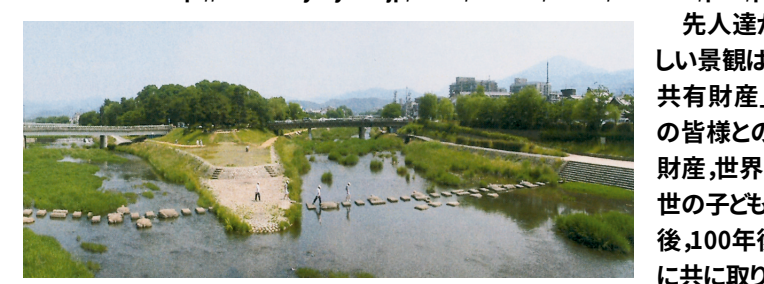
時を超え光り輝く 京都の景観を目指して

1200年を超える悠久の歴史を積み重ねてきた京都。三方をなだらかな山並みに囲まれ、市街地を流れる鴨川や桂川などの豊かな自然と、世界遺産をはじめとする数多々の歴史的資産や風情ある町並みとが融合し、美しい景観が育まれてきました。

しかし、高度経済成長期以降ととりわけバブル経済期における無秩序な都市開発の流れの中、市民の皆様の行政による景観の保全・再生の並々ならぬ努力にもかかわらず、京都らしい優れた景観が日ごとに様変わりしつつあり、住環境や子育て環境にも影響を与つつあります。このままでは、近い将来、京都は個性や魅力のない都市になってしまいます。

そのため、京都市では、「快適で、美しい、世界に誇る都市空間」の形成を目指し、建物の高さやデザイン、屋外広告物に関する規制についての抜本的な見直しと、五山の送り火を眺めるといった京都特有の美しい眺め(眺望景観)を守り、子どもたちにも伝えていく新たな景観政策に取り組んでおります。

(詳しくはHP <http://www.city.kyoto.jp/tokei/keikan/news/news18/pub/pubcomeindex.html>)。



賀茂大橋から北山方面を眺める

先人達が守り、育ててきたこの京都の美しい景観は、「公共の財産」であり、「市民の共有財産」です。市民、事業者、専門家等の皆様とのパートナーシップのもと、日本の財産、世界の宝ともいえる京都の景観を、後世の子どもたちに引き継いでいくため、50年後、100年後にも光り輝く京都の景観づくり

に共に取り組みましょ。

●最近、給食費の未納問題がマスコミで大きく取り上げられています。しかし、京都市の未納率は、0.04%と全国平均の1/20以下。これは、PTA活動を通して保護者の自覚の高さ、町衆が浄財を出し合い創設した番組小学校の伝統を引き継ぎ、学校・家庭・地域、さらには関係機関が連携し、相互に信頼しつづ責任を果たしあう関係が築けているからではないでしょうか。

●「子どもを共に育む京都市民憲章」が制定されました。2月24日には、国立京都国際会館で制定記念の集いが開催されます。制定はゴールではなく、スタートです。今後の行動の輪を広げていく大切なスタートラインであり、ひとりででも多くのご参加を願っています。

●教育再生会議メンバーが統々と教育先進都市・京都から学ぼうと入洛。市民くみで進める教育に全国が注目。誇りに思っています。

家庭教育新聞

みんなで楽しく

世界一美しいまち、
京都を歩く

ウォーキング

秀吉が開いた城下町・伏見を歩く



島弁天さん(長建寺)にて

豊臣秀吉はその晩年、陸路・水路の交通の要所である伏見を居城地と定め、大規模な開発を行いました。伏見港の開港、巨椋池と宇治川の分離、太閤堤・横島堤と呼ばれる堤防の造成。そして、伏見城・向島城の築城。今回は、城下町・伏見の歴史をたどる向島界わいから、酒蔵が並ぶ南浜界わいを歩きます。

名水でのを潤し、旧大和街道を親月橋へ

伏見の産土神で、太閤秀吉が伏見城の守り神としたのが御香宮神社です。神社の名の由来となった「御香水」は古くから伏見の七名水の一つ。本殿脇に湧き出す清泉は環境省の「名水百選」にも認定されています。神社の東側の国道24号線(旧大和街道)を南へ進み、宇治川の手前を東に曲ると、大きなタヌキの像が迎えてくれる西蓮寺。江戸時代の末期、住職が裏山のタヌキをかわいがっていたことから「狸寺」と呼ばれるようになりました。裏山の指月の森は秀吉が最初の伏見城を築いた場所ですが、慶長元(1596)年の大地震により倒壊。第二の伏見城が桃山(現在の木幡山)に築城されました。宇治川に架かる親月橋の対岸が向島で、ここには月見用の城として築かれた向島城がありました。当時は巨椋池畔の水郷地でしたが、現在は伏見最大のニュータウンとして発展しています。



「おいしい!」。子どもはお水を、大人は利き酒をのんで笑顔でひと言。京都・伏見はおいしい水とおいしいお酒のまちというイメージ。情緒ある水路沿いをのんびりと歩き、大倉記念館でお酒について学んだあと、お水とお酒をいただいてほっとひと息。その先にある寺田屋旅館に一步入ると幕末の頃の空気が漂い、歴史の一場面にいるように感じられました。賑やかな大手筋商店街では、酒樽とかわいい人形のからくり時計を見ることができ、親子そろって楽しい歩き旅でした。

子育てサポーター(北白川小) 佐藤祐子、松田美輪、西村優子、大和しのぶ(PTA)ほか

堀川高校は横田早紀江さんの母校です。



横田滋写真展

めくみちゃんと家族のメッセージ

3月8日(木)～13日(火)

午前10時～午後6時(最終日は午後5時)

堀川高校本館ホール

中京区錦薬師通油小路東入

入場料/無料

お問い合わせ/朝日新聞大阪本社宣伝PR部 ☎06-6201-9597

主催/あさがの会(横田めぐみさんご家族支援の会)

共催/朝日新聞社 後援/外務省、拉致問題対策本部、京都市教育委員会他